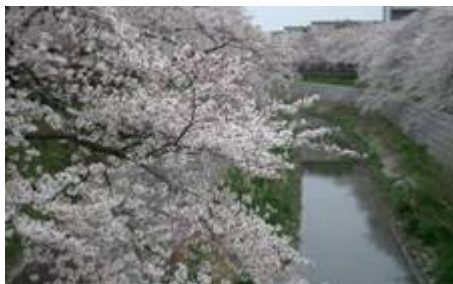


山崎川の満開の桜

名古屋の「桜の名所」として、山崎川をあげる人も多いであろう。職場から歩ける距離であり、風が強くすこし寒かったが、とにかく帰りがけに山崎川に向かって歩いた。桜は満開であった。やはり川沿いに咲く桜は美しい。寒さも感じられる夕方ではあったが、桜見物の人が多かった。



「みどりのまち名古屋」というガイドブックによると、山崎川の桜は昭和3年(1928)に耕地整理組合の手によって植栽されたのが始まりと伝えられている。昭和20年(1945)頃にはすでに桜の名所として市民に知られ、季節には賑わいをみせていたという。石川橋から下流の兩岸2.8キロにわたる桜並木は、「四季の道」と呼ばれ、「さくらの名所百選」に指定されている。



桜山で古くから店を開いている居酒屋店主から聞くと、昔は川沿いに屋台も並んで桜見物で大賑わいだったようだ。それが騒音などにより、川沿いの住民から苦情が出て、屋台は禁止になったという。確かに川沿いを歩いてみると、屋台が出て集客できるような空間を確保できるとは考えにくい。私のような酒好きにとっては屋台がないのは寂しいが、ここは地域社会との「共生」を大切にしたいものだ。時間がないので足早に最寄の地下鉄駅に向かったつもりが、結局は八事まで歩くことになった。

(2006年4月7日 記)